



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 25 年 3 月 7 日(木)
のしろ市民まちづくりフォーラム 編

3月7日(木)、能代市海詠坂の木材高度加工研究所にて「のしろ市民まちづくりフォーラム～日本風景街道を通して私たちにできること 5～」を開催しました。用意した席は概ね埋まり聴講者 30 人程度といったころでしょうか。

フォーラムは能登代表の開会挨拶に続き、渡辺千明准教授の趣旨説明と次第に沿って進んでいきました。

講師には、「自分のまち、エリアの魅力を自信を持ってプレゼンできますか？」と題して、まちづくり観光デザインセンター代表の かとうけいこ氏に講演を頂きました。実はかとうさんには、2 年前のフォーラムに参加して頂く予定でしたが、東日本大震災が発災したため、やむなく開催を中止した経緯がありました。今回念願叶っての講演です。講演では最初に 24 時間で見つけた秋田、能代の宝物について話され、秋田の人のやさしさに感動されたようでした。続いて地元学の話、個人よりも集団の力の結束の大切等について講演を頂きました。

かとうさんの講演に続いて、「大地震は必ず来る！過去の教訓と取り組むべき課題」と題して、(株)エイト日本技術開発最高顧問 佐伯光昭氏から講演を頂きました。最初に、今年で 30 年を迎える秋田沖を震源とした日本海中部地震について話されました。漁港、家屋等の被害状況から始まり、道路の被害状況について話されました。国道 7 号の能代南バイパスは液状化の影響により、道路に大きな変状をもたらしました。佐伯氏は過去にその道路の災害復旧設計を実施した担当者であり、詳細に当時の設計計画等と話されていました。その後は、過去の地震の発生状況、地震のメカニズム、地震に対する考え方、「減災」を目指した事業推進等について講演を頂きました。

休憩を挟んで行われたフロアディスカッションでは、最初に桂樹正隆氏、中村亮氏から話題提供を頂き、植野芳彦氏のコーディネートで進行していきました。観光とまちづくりの話題で進んでいき、聴講者も興味深く聞き入っていました。その後の質疑応答でも多数の活発な意見がありました。

文： 加藤 真吾



約 30 名の参加がありました。司会は昨年に引き続き、能代市の小野さくらさんをお願いしました。



3 年越しの願いがかなっておいでいただいたかとう氏のお話は、とても分かりやすく、多くの人が共感・感動しました。泣いちゃった人も・・・。



佐伯氏のご講演は今後の地震対策・減災について学ぶことが多い内容でした。



少ない人数ながらも今年もフロアから、日ごろの悩みを解決しようと、色々な質問がありました。